幼小接続学びカード

記入者 [redacted] 小学校 [redacted]

保育者	[redacted] 幼稚園　名前 [redacted]		
日付	R7年11月25日	内容	もっきんと　なかよくなろう

【子どもの思いを引き出す言動】

・「前にお友達がいたら、音が重なっちゃうから重ならないようにしてね。」
・「名札の左側に木琴の長い方がくるようにしようかな。」
・「今日は、たたいてみようかな。」
・(ばちを見せながら)「触り心地はどうかな。触ってみて。」「どう？」「違う？」「みんなが木琴だったら、どっちがいい音が出ると思う？」
・声を出して高いを感じる。ぴょんぴょんとぶ。
・「ドの音と仲よしになりたいな。どう鳴らしたらいい音になるんだろう。」
・「一人一人、聞いてみたいな。」
・「ドの音で拍手。」
・「Bくんのドの音、聞いてみよう。」「Aちゃんとは違ったね。」「Aちゃんのはどんな感じ？」
幼児「きれい。」「やさしい。」「お話してるみたい。」→先生「私もそう思う。」
・「こんな音出したいなとか、やってみたらこんな音が出たよっていうのある？教えて。」
・「大きいね。大きいけれど、いやだなとは思わないね。いいぐらい。」

記入者の気付き	授業（保育）者のねらい
・子どもの言葉を受け止める→共感→子どもの言葉を引き出す ・子どもに考えるチャンス、考えるヒント（判断する基準）をプレゼントして、いっしょに考えて決めている。 ・「先生がよいたたき方を教える」「先生のたたき方がよい」ではなく、子どもたちがみんなでチャレンジ（やってみる、試してみる）して、音を感じながら、いい音の出し方を見つける。知識の伝達にとどまらず、体や心で感じながら、見つけたり、確認したり、納得したりを自然にくり返すことができるようにしている。 ・その活動をしながら、子どもたちが互いのよさを認め合うことができる。	・音階を体で感じられるようにする。 ・幼児の思いを音に託して自由に表現できるようにし、自分なりの表現が他から受け止められる体験を繰り返す中で、安心感や表現の喜びを味わわせる。 ・木琴の音を出して表現を楽しむ上で、幼児がイメージを広げたり、そのイメージを表現したりできるようにする。

【幼稚園と小学校のつながり】

音楽「どれみとなかよし」「こんにちはけんばんハーモニカ」「ねいろとつよさ」
「みんなであわせてたのしもう」